



伝西行法師書状(弘川寺蔵) / すけがたより、から始まる、西行筆と伝わる消息(=音信・手紙)。書風には麗麗さ軽快さが見られる。平安時代に書かれたもの。



西行物語絵巻断簡(館蔵) 那智の滝 西行物語絵巻、は、西行の出家から全国への流浪の旅を続けたのち、入滅するまでの生涯を描いた絵物語。本図は1500年に制作された図を江戸時代に写本されたもので、白衣の山伏姿の西行が那智の滝の前で佇む場面が描かれている。

漂泊の歌人、

西行法師が

紀州を巡る

花や月をこよなく愛し、新古今和歌集には最多の94首が選ばれている西行。宮廷内ではなく、心の赴くまま旅し、山里に庵を結び歌を詠んだ。そんな姿から「漂泊の歌人」といわれ、今も多くのファンを擁んで離さない。

本名は佐藤義清さとうのりきよといい、元永元年(1118年)、現在の和歌山県紀の川市を拠点に活躍した裕福な豪族の家に生まれた。15歳になると京都で宮仕えをはじめ、鳥羽院の北面の武士にもなり、武芸にも秀で歌の才能も認められていたことから、将来を嘱望されていた。しかし23歳の時に、妻子だけでなく全てを捨て突然出家する。その姿勢は歌に対してストイックともいえるが、妻子を捨てるなど自分勝手なように映るかもしれない。しかし浮世のしがらみを捨て、心のおもむくまま諸国を巡り歌を詠った西行のミステリアスな生き様も、人々を惹きつけてやまない理由のひとつかもしれない。



西行は32歳で高野山に入山し、以降30年ほど高野山を本拠にした。かつらぎ町天野の里には高野山の氏神・丹生都比売大神(にうつひめのおおかみ)が鎮座し、高野山の避寒所でもあった。堂は天野の里をたびたび訪れた西行の徳を慕った里人によって建てられたもの。何度も再建され現在の堂は、1986年に再建されたもの。

西行堂
住所 / 伊都郡かつらぎ町下天野
電話 / 0736-22-0300(かつらぎ町観光協会)



龍蔵院から500mほど離れた国道424号沿いに立てられた西行法師像



全国各地へ遊行の旅に出、多くの歌を詠んだ西行は、高野山～天野に長く庵を結び、和歌山で80首もの歌を残した。左図は西行が歌を詠み残した場所。

find!
Saigyō
event



西行法師が生まれたとされる佐藤城の跡地に建つ龍蔵院(りゅうぞういん)。境内には生誕石碑も立てられている。

龍蔵院
住所 / 紀の川市竹房152

西行法師生誕900年記念

西行

紀州に生まれ、紀州をめぐる

平成30年10月13日(土)～11月25日(日)

平成30年は西行法師が生まれて900年の記念の年を迎える。紀州が生んだ歌人西行にまつわる文化財を一堂に集め、和歌山に残した足跡と共に、西行の事績を振り返る特別展示展を開催。また「西行 再発見!」として連続講座を期間中の土曜日に開催。



和歌山県立博物館
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

住所 / 和歌山市吹上1-4-14
電話 / 073-436-8670